

吉川 研究室	氏 名	阪野 慎司
卒業研究題目	節分割に基づく法律文の係り受け解析	
<p>法律文の電子的配布の推進や法科大学院の設置，また，裁判員制度導入の検討など，法律文は我々に身近なものになりつつある．しかし，法律文には，新聞や雑誌など我々が日頃見かける文章に比べて多くの固有の性質があり，一般の人が読んで理解することは容易ではない．そのため，法律文に対する種々の文書加工処理が期待されており，そのための基盤として法律文の言語解析技術の開発が望まれる．</p> <p>日本語の言語解析としてこれまでに多くの係り受け解析手法が提案されている．しかし，法律文のような長い文に対しては文節の係り先の曖昧性が増えるため，解析精度が下がるという問題がある．</p> <p>そこで本論文では，「節」と呼ばれる単位を利用した法律文の係り受け解析手法を提案する．「節」とは文の構成要素の一つであり，述部を中心とした一つの意味的なまとまりである．本手法では，まず，文を節に分割し，節単位で係り受け解析を行い，節内部の係り受け関係を同定する．次に，節の最終文節に対する受け文節を，文全体の係り受け解析において決定する．本手法により，係り先の曖昧性を減らすことが可能となり，解析精度の向上，及び，解析時間の短縮が期待される．本研究では，節分割には日本語節境界検出器「CBAP」を，係り受け解析には日本語係り受け解析器「CaboCha」を使用して実装した．</p> <p>本手法を用いて法律文の解析実験を行った．実験では，民法のうち人手で正解データを付与した200文を用いた．200文の平均文節数は11.5，総係り受け数は2095である．本手法による解析精度は91.5%，再現率は84.9%であった．「CaboCha」を直接使用するよりも高い解析性能を示しており，本手法の有効性を確認した．</p>		